

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第2回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）令和3年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

令和3年5月25日（火） 午後5時30分から午後8時40分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：村田敏昭（会長）、川住健作（副会長）、山井広子（副会長）
石川美恵子、加藤國治、神崎 淑、小林雅史、高橋敏光、高橋 誠、
高宮宏一、平良木美佐江、山本一男（欠席2人）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、小池係長、五十嵐主任

8 発言の内容

【五十嵐主任】

- ・ 大瀧幸治委員、土屋博幸委員を除く12人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：山本委員と平良木委員に依頼
次第2「議題等の確認」について事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき、議題の確認

【村田会長】

- ・「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

— 次第3 議題（1）令和3年度地域活動支援事業について —

【村田会長】

次第3 議題（1）「令和3年度地域活動支援事業について」に入る。

本日は、今年度、提案があった全16事業のうち9事業について、提案者からの事業説明と質疑応答の後、審査・採点を実施する。

正副会長は審査、採択に加わるため、事務局に会の進行を求める。

【堀川センター長】

- ・提案事業16件、補助希望額合計853万3千円、金谷区予算配分額850万円の枠を3万3千円超過。
- ・審査の流れは1事業につき、事業説明5分以内、質疑応答15分以内、審査と採点2分以内で行う。

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

審査・採点を始める。

整理No.1「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業提案書に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【平良木委員】

提案書の事業の実施体制に「まちづくり活動通信「やまぼうし」の発行につい

て滝寺まちづくり協議会広報と連携をとり、外部参加者募集を働かせる」とあるが、どのような活動にどのような人たちの参加を望んでいるか。

【提案者】

どなたでも参加できるようなものを広報に掲載している。外部の方も来られればよいが、町内会単位で動いているところがある。日程は第2日曜日。散策をしている一般の方も見かけるが活動に参加してくれるほどではない。市の広報を使つての大々的な広報はしていない。

【小林委員】

自主財源がゼロということで、昨年の実績についても地域活動支援事業の予算のみである。地域に根差した大事な活動をされているが、仮に補助金がなくなった場合はどのように活動を継続するか。

【提案者】

31万1千円で予算を組んでいるが、実際は町内から13万円ほどいただいている。市の補助金から支出できない部分や予算をオーバーした部分、緊急の場合に使用している。昨年も7万円ほど使った。自主財源が全く無いわけではない。もし補助金なくなった場合は事業を縮小せざるを得ない。ボランティア活動であるため残念ながら今の状態は継続できない。

【小林委員】

そうであれば、ここの自主財源をゼロと書くのではなく、自主財源を持っているという書きの方が事業の継続性や活動の根幹に対してプラスのイメージになるので書き方も検討してほしい。

【神崎委員】

会員は町内全世帯と書いてあるが、そのうち実際に活動されているのは何人ぐらいか。水芭蕉の遊歩道や散策路を整備しているが、先ほどかなりの人が散策しているとの説明であったが大体どれぐらいの人数か。毎日見かけるとか、2日に1回見かける等の回答でよい。

それから、栽培キノコを活用した試食会を実施されているが、去年は参加者50人の中で、町内以外の方はどれぐらいか。その内訳として、例えば金谷区それ以外

がどのくらいか。

【提案者】

実際に活動しているのは20人くらい。活動する人が限定されているので、残念ながら役割分担があるので、ある程度決まっている。

私は極力日曜日に行くようにしているが、だいたいすれ違ってみて、散策していると思われる人数は、3、4人くらいかと思う。夫婦で来られている方もいる。愛の風公園をずっと歩いて見ているわけではないが、かなり来ているという話を聞いている。

キノコの試食会の参加者は、ほとんど町内で一部町内から出た人も来ている。子どもも10人くらい入っている。この時には餅つきとかも行っている。去年は町民全員にPRをしなかったが屋外の公園で行った。コロナ対策をとっているので宴席もつくり餅つきやキノコ汁という形で活動している。

【高橋敏光委員】

昨年度、2年前から水芭蕉が全滅しそうだと聞いたが、現在どのくらいの回復状況か。

【提案者】

今年はかなり増えた。去年まで張っていた有刺鉄線は中に入って草刈りもしなければいけないため撤去した。今年の被害はまだない。これからどうなるかわからないが、毎年春先に荒らされていたが、今年はその跡はない。水芭蕉は移植しながら増やしている。数的には5分の1くらいになったが、全滅にはならずすんだ。

【高橋敏光委員】

その被害は猪だったか。

【提案者】

猪である。

【高橋敏光委員】

滝寺地区も含め、今年は集中して上越市の4か所くらいで猪を全面的に退治するという話が出ているが聞いているか。

【提案者】

聞いている。私も役員会に出ているので、檻の設置をお願いすると思う。

【村田会長】

小林委員が指摘したように、町内会が支援されているということを聞き漏らしており、補助率100%だと認識していた。今年は13万円、昨年が7万円支援されているので、それを含めた形で提案書に記載すべきであった。

さらに、この事業が長く続いているので、滝寺町内会長さんからさらなる理解をもらって、逆に町内会での補助率を高めてほしい。

【提案者】

最終的な結果報告書には市の補助金、自己資金という形で提出する。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.1の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.1「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」の審査・採点を終了。

整理No.4「正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

・事業提案書に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石川委員】

冬囲いで丁寧に縛ってあるが、あれは必要なのかと思っている。私も中ノ俣で紫陽花をたくさん育てているが、花が咲いた後は花を全部とる。後はどんなに雪が降っても何一つ支障はなくいっぱい花が咲いてくれる。いちいちグルグル巻きにする必要があるのか。咲いた花を全部採った方が形になると思う。

【提案者】

そのようなこともみんなでも話し合ったが、草刈がしづらくなったり、今年のように

な大雪になると開いて折れることが多くなるのではないかと考えた。あと、道路のガードレール側にもあるので開いて出るとまた切らなければいけない。

そういうことで一応、植木屋さんもいるので聞いたりはしてはいるが「しないよりはした方がいいのではないか。道路にはみ出してしまうと、綺麗な物もみんな切らないといけない」と言われている。あと、ダム湖側に倒れてしまうと見えなくなるということで冬囲いを行っている。

【石川委員】

その考えでもかまわない。花はみんな取らなくてはいけないが、かえって横に広がることで下草も刈らなくてよくなる。いっぱい咲くと思うので実験してほしい。

【提案者】

全部でなく一部倒れても邪魔にならないようなところを探してやってみたい。

【高橋敏光委員】

現場は去年行って見たが、老木になっている。若い方の植樹はどうなっているのか。老木自体も枯木になって、なかなか株が古くて脇芽が出にくいのではないのか。

【提案者】

去年思い切って伐採等を増やした。今言われたとおりこのマイクぐらいの太いのがあって、枯渇しているのがあるので特にそういうのを集中的に採っている。そのため今年は大分太い高木は減っていると思う。特に今年には雪が降り老木が折れてくれたおかげで、春の冬囲いの時に引っこ抜いて処理している。若い芽が出るように管理したいと思う。

【平良木委員】

あまり大勢でない方々が本当に一生懸命に綺麗にしていると思う。提案書にごみの不法投棄がなくなるようにとある。去年の参加者を見るとごみの回収が9人ぐらいと書いてあった。参加者を増やすことは考えているか。

【提案者】

設立当初のころ、子どもや町内の方々に出てもらっていた。子どもや高齢者には危険な崖があったり、不法投棄物も大きいものでバイクとか冷蔵庫、耕運機があったり、蜂がでたり危ないということで、関係各部署から遠慮させていただきたいと

ということがあった。そのため、現存のメンバーが行っている。また、年々量も減ってきている。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.4の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.4「正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化事業」の審査・採点を終了。

整理No.5「里道（旧後谷線）の整備事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者①】

・事業提案書に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【山井委員】

質問ではないが、団体等の沿革のところ、単なるミスだと思うが2916年となっている。2016年発足でよいか。

【提案者①】

よい。訂正願いたい。

【高橋敏光委員】

本当に皆さんが頑張って最後までたどり着いたことは素晴らしいと思う。

ただ、また3年か5年経つと木がものすごく生えて、また歩けなくなるような気がする。その辺の管理の方法はどう考えているのか。

【提案者①】

今、会員の中で一番年齢が若いのが50歳前後。後継者の育成が急務であるが、なかなか組織の中に加わっていただくことができない。魅力ある事業を紹介しながら、地域の若者に活動を呼びかけていこうと思う。特に親子自然体験学習の時間をチャンスに推進したいと思っている。

【提案者②】

現場の整備の担当者として、今年の大雪で看板等を設置する作業があったが、看板を持って歩くどころか人も歩けないような大木が倒れている。その大木は枯れ松だが、それにまた違う長さの木も一緒に倒れているようなところですのですごい障害になった。そういうことで、黒田小学校の子どもさんたちが遠足みたいに歩く校外授業の時はそれに合わせて、危険木を未然に伐採している。人に言うからには、我々は安全の確保が大事だと思うので引き続き伐採等を含めて整備していきたい。

【神崎委員】

学習会と書いてあるが具体的な対象と内容について、もう一つ「わが心の里道」は2,000部印刷されると書いてあるがどちらに配布されるのか。

【提案者①】

学習会の一つ目は老人会のリーダー研修を通して、各自の団体がどのような活動をするのか会で検討してもらい、興味関心があれば参加してもらうように、リーダー研修会で会長や副会長を招集して里道を歩く。それから親子学習会は、これはまだ協力依頼はしていないが、去年の暮れに伐採された檜の木・水檜の間伐材をほだ木にして、「親子キノコの駒打ち体験学習会」のようなことができたらと今キャンプ場に問い合わせている。具体的にはその二つである。

広報は、黒田小学校区11町内会に全戸配布し関係機関として報道関係、学校関係、記者クラブ等々である。あと後谷会というのが後援の一つに入っている。この地を離れて関東やその他地域におられる方にも配布している。

【提案者③】

補足すると、それぞれ会員の持っているSNS等でも宣伝しており、希望の方に差し上げている。本来は金谷区全体に配りしたいところではあるが、そこまで手が回らないため全戸配布は黒田小学校区だけである。市内一円の手の届く公共施設にできる限り置いている。

【提案者④】

実は、先ほど金谷分館の担当の方と公民館係の方がお見えになり、7月ごろに回覧版になると思うがこの会の趣旨とそれから活動状況等を報告して8月末から9

月ころにこの会の創立趣旨とか活動内容についての座学を実施し、その後10人から15人ぐらいの単位で現地学習をするところまで話をしている。今日はまだ事務局の方と打ち合わせしていないが金谷分館としても主要行事の一つとして取り組んでいきたいという話があったのでお知らせする。

【神崎委員】

老人会のリーダー研修というのがイメージできない。いろいろなところの老人会か。

【提案者①】

黒田小学校区の11町村にある老人会の会長、或いは副会長を一堂に会して一緒に里道を歩いていただき、こういうプログラムがありますという紹介をして、自分の団体に持ち帰って、利用するか否か検討するという学習会である。

【小林委員】

先ほどの後継者不足という話もあったが、やはり黒田小学校区がひとつの鍵である。黒田小学校区の学校運営協議会や小学校にはPTC活動があり、子どもと先生と保護者の活動があると思う。その保護者を巻き込むとか子どもたちだけではなく黒田小学校を卒業して中学高校に進まれている方も立派な戦力だと思う。ぜひその黒田小学校で教えたことが次のステップに広がっていくような形で、黒田小学校を中心とした活動の中で働き手を集めていくのが一番いいのではないかと思う。

【提案者①】

徐々に広がる感覚があり、頑張りたいと思う。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.5の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.5「里道（旧後谷線）の整備事業」の審査・採点を終了。

整理No.2「Nature Quest ～自然体感オリエンテーリング～ 事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・ 事業概要に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石川委員】

中ノ俣に1泊する計画であるが、正直1泊では良さなどが全然通じないと思う。年に6回から7回子どもたちを通わせてくる学校がある。そうすると最初の1回か2回では、「木は何本ありますか、テレビはありますか、お金って知ってますか」などの質問がくる。ところが6回7回と通ってくると目が光って来て、こういう知恵があつて、こういう工夫があるのだということで、最後は中ノ俣に住みたいと思うという子どもたちも出るくらい理解が深まる。1泊ではちょっとわからないと思うが、でも触れることはいいことである。是非また続けてほしい。

それから提案書に丸太切り競争と書いてあるが、中ノ俣に競争原理は似合わないと思う。ゆっくりと木を切ってほしい。本当に競争したらノコギリを使ったことがない人達は怪我の元だと思う。ゆっくり切って、みんなでよく切れたねという精神を養ってほしい。

【提案者】

何回も経験させることの方がすごく大切だと思う。委員会としてもできれば回数も増やしたいが諸事情があり1泊2日という選択をした。今回の対象者は中学生になっている。小学生の時には学校の方でも自然体験学習などがある。特に飯小学校とか大町小学校の子どもたちは中ノ俣の方に伺っていることも聞いている。全然予備知識がないという状態ではないと考えている。

丸太切り競争についても実際競争を目的とはしていない。子どもたちで何か楽しくゲーム性を持ってやった方がよいという考えである。安全面には十分配慮して楽しく事業を行っていきたい。

【平良木委員】

この活動事業は、来年は継続しないと書いてあるが、どのような流れで今年やることになったのか。内容のところでも2日目にディスカッションをして事業に向けて

自然の中でやりたいことを話し合うが、これは今後何かに生かすとか、そのような展望はあるのか。

【提案者】

青年会議所では、単年事業で今まで運動を起こしてきたので、現段階ではこの事業を継続することは決まっていない。ただ、青年会議所としては青少年育成事業に関しては通年行っている。この当委員会の事業の他にも中学校からの依頼で、職業講話を行っている。今年度は城東中学校から地元で働く職業人から話を聞こうということもあった。

2019年には城西中学校からその職業講話というお話があり、私も実際参加して私が働いている仕事について話をした中で、子どもたちが地元で働くということを知ってもらったと思っている。

次に、先ほど申し上げた当委員会は今3本の事業計画をしているので、こちらの事業を通して自然体験学習の後、その翌日の午前中に会議をする予定にしている。実際に子どもたちが感じた中ノ俣の魅力を上越市に置き換えた時、上越市の魅力ってどんなところだろうという話も引き出そうと思っている。その話を引き出すために私たち委員会もファシリテーター講習というのを受けた。ファシリテーターは先導役のような形になるが、うまく会議をコントロールして子どもたちの意見をできるだけわかりやすいように引き上げるような講習を受けている。そこで2本目の事業で、その中で子どもたちから出たアイデアや意見を形にしようと考えている。実際は舞台が変わってしまうかもしれないが、子どもたちの意見を拾って実際に子どもたちがやりたいこと、やってみたいことを実現していきたい。それは今9月ごろを予定している。

【山井副会長】

参加対象について市内中学生18人となっているが、今の中学生は結構部活だとか忙しい。1人で参加してみようと思ってもなかなか面倒だと思う。1回だけというのは難しい気がする。その辺のところはどのような人を集めようと考えているか。なかなかチラシを配布しても集まらないのではないか。今の子どもたちはなかなか1人で積極的に参加しようと思わないのではないか。どう考えているか。

【提案者】

事業日が今週末ということで確定している参加人数は12人。内訳は、個人でエントリーしてくれた方が5人ぐらい、あとは兄弟や学校の仲良しグループでの参加である。当初はもう2人いたが、今のこういう情勢であるためキャンセルになった。まだ、時間があるので受け付けをしている。

【小林委員】

高校生はどうなったか。当初6人となっているが。

【提案者】

当初、私たちは年間事業として上越高校にお願いをしていたが、学校側の方で年間になると子どもたちの負担がかかるということで、急遽協力はできないという話が先日あった。実際はキャンセルという形になった。

【小林委員】

今は全員中学生か

【提案者】

中学生である。

【小林委員】

せっかく中ノ俣に行くので、私の気持ちとするとやっぱり地域の方々と触れ合うのが一番ではないかと思う。当然地球環境学校がベースになっていいと思うが、今の中ノ俣の実情や地域の方々の考え方、今までの経験、そういうものを少しでも感じ取れるのが一番子どもたちにとって有益かと思う。

【提案者】

実際にグループで行動することになり、子どもたちに委員会メンバーも同行する。地球環境学校の職員の皆様にも協力いただいて1班に1人同行してもらう予定である。何かわからないことや気づいたことを実際に地元に住んでいる方に質問できるように私達も誘導していく。私たちも事前に視察しているので、当然自然だけではなく文化とかいろいろなものについてアドバイスを職員の方をお願いしている。

補足として、現在新型コロナウイルスが上越でも少し出ている状況がある中で、参加者と保護者に少しでも安心して参加してもらうよう、参加メンバーと私たち委

員会メンバー全員は抗原検査を受けることにした。こちらの予算には組み込んでないが急遽そのような対応をした。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.2の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.2「Nature Quest ～自然体感オリエンテーリング～ 事業」の審査・採点を終了。

— 休憩 —

【堀川センター長】

会議を再開する。

整理No.6「滝寺砦石碑の建立、陣取原案内看板及び滝寺砦古道の整備事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

・事業概要に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石川委員】

トヤ峰砦と宇津尾砦には石碑があるので滝寺砦にも石碑が欲しいということであるが、今この時代にこの石碑がいるのか。私はとても疑問に思う。この看板も随分立派な看板だがそれはあってもいいと思う。どれくらいの思いでその石碑が欲しいのか。

【提案者】

花ヶ前盛明先生、植木宏先生、永見完治先生の本に滝寺砦について説明が書かれている。石碑というのは「ここが滝寺砦の跡です」ということを書いた看板を出す

こと。これも一つの砦跡の表示だと思う。しかし、そのようなものを出すのであれば、説明文がやはり必要になってくる。トヤ峰砦と宇津尾砦も説明文がついた砦に石碑が建立されている。他の砦あるいは山城に行くところの所にそれが付いている。

ただ単なる看板一つに載っているのではなく、ここはこういうような謂れがあったということをもた別の看板につけて出している。今の滝寺砦は元々場所がわからなかったのが石碑はできていなかった。本来ならばトヤ峰砦と宇津尾砦の石碑ができた平成14年の11月に滝寺砦もできていなければならないという流れだと思っている。上杉謙信公時代にはこの3つの砦が同じような仕事をしていたので、それと同じレベルの石碑をお願いしたいと考えている。

【小林委員】

トヤ峰砦と宇津尾砦の石碑は、どこの予算で設置されたものか。

【提案者】

私はわからない。その当時正善寺の方から副市長が出ていた時代だったと聞いている。

【平良木委員】

10月の健康ウォークはどのような参加者でどのようなイメージで計画しているか。

【提案者】

新型コロナウイルスの関係があるため盛大にはやることはできないと思っている。何人かは、砦の石碑ができたならそこを歩く。もう1つは、陣取原の看板がこのようにできたということをみんなに周知するため、ウォーキングコースを歩くことを考えている。その時は5人くらいを1つのチームにして周るような形で行いたいと思う。

【山井委員】

活動支援事業のところでは事業の目的を達成するために直接必要な経費を補助するとある。この予算を見ると、石碑の建立と案内看板ということでこれが大半を占めているため、石碑建立については引がかかる。「他のところにあるからここにも」

というよりも、どのようにするのかというところも説明してほしい。

【提案者】

石碑を建立するという事は、その場所がはっきりと明示される。現在その砦のところで狼煙上げを行っている。去年オリンピックの聖火が来るということで、糸魚川から上越へ入ったことを知らせるため、各砦で狼煙を上げて、それが春日山城の方へ行って最後に狼煙を上げるという連絡機能を果たす狼煙上げを行う予定であった。しかしコロナでできなくなり、今年は平日なので若干の砦で狼煙を上げるような形で滝寺砦の方では市に協賛している。

そういうことがあるので、砦の方へウォーキングをする時は何か説明文がないとただ単なる山を歩いてきましたというだけで、何の意味もないため是非、案内看板が必要だと思う。それを付けることによって多くの人がそこを訪れてくれるようになると思う。

【村田会長】

仮定の話だが、もし案内看板等は認められたがこの石碑は除外するという決定になった場合、本事業はどうするのか。

【提案者】

町内で自己資金をもって石碑を建立することぐらいまでは考えているが、町内会の方ではそういうところまではお金の許可はしてくれないと思う。それでこの支援事業に提案した。駄目ならば、例えばトヤ峰砦と宇津尾砦の石碑は同じ時代に建立されているので市の方へ直接要望書を出そうと考えている。

【村田会長】

それであれば順番があべこべでないか。先に市へ提案して、市が駄目だったので地域活動支援事業に提案するという方がいいのではないか。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.6の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.6「滝寺砦石碑の建立、陣取原案内看板及び滝寺砦古道の整備事業」の審査・採点を終了。

整理No.8「まちづくり、子供の安心・安全の見守りと健全育成の支援事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業概要に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【神崎委員】

子ども会、青友会（青年会）、青木シニアクラブ青令があると聞いたが、それぞれ具体的にどのような活動をしているのか。

【提案者①】

子ども会は年に4回くらい子どもたちだけでなく親とのコミュニケーションを図るために、集まって飲食をしたり夏は子どもと親と一緒に水族館に行ったりして、活動を通してコミュニケーションを高めている。

【提案者②】

青友会は夏祭りの主催者になって、町内の取りまとめ等をしてもらっている。それから田んぼや畦道などに危険個所がないよう町内の草刈等も行っている。

青木シニアクラブ青令は老人会の方である。設立して3年目で少数だが、皆さんやる気を持ってやっている。年を重ねるとどうしても家の中に入りやすくなってしまふ。それを外に出て子どもたちとコミュニケーションをとりたいと思い、これを計画した。

【神崎委員】

今言われた活動の中で具体的にベンチと時計を設置される公園で行う活動はあるか。

【提案者②】

夏に近くなればラジオ体操、夏祭り、それから子どもたちが遊具を使って遊んでいる時の見守隊である。不審者が来てもすぐに対応できないとか、子どもたちが遊

んでいるときに時計の見方を知る。水分をとる時間などを子どもたちに声かけをする。親子のスキンシップ、老人会とのスキンシップ等に期待が持てると思い提案した。

【神崎委員】

公園が3つあると聞いたが子どもは公園で遊んでいるか。

【提案者②】

112世帯410人がいるが、うちの町内は小学生だけで42人いる。黒田小学校が180人くらいなので4分の1近くはうちの町内であり公園で遊んでいる。

【加藤委員】

提案書の目的に公園には遊具が設置されているが、見守りができにくかった現状があると書いてある。今回、公園に時計と椅子を設置することで、より見守りしやすくなるとあるが、もう少し具体的に説明してほしい。時計と椅子が入るとどうして見守りがしやすくなるのか。

【提案者②】

年を重ねると長時間立ってられない。座りながら子供たちがどういう遊びしているか、体調の管理も、年寄りの知識や子どもたちの知識をコミュニケーションとりながらやっていきたい。

【加藤委員】

42人の子どものうち、今年の新入生と2年生は何人ですか。

【提案者②】

新入生6人、2年生は4人である。

【高橋敏光委員】

公園が3つあるがどのぐらいの規模の公園か。また、公園の管理者はどこか。

【提案者②】

公園は市のもので管理は町内会が草刈までやっている。

【高橋敏光委員】

3つとも市のものなのか。団地構成の緑地ではないのか

【提案者②】

3つとも市のものである。

【高橋 誠委員】

公園の所有者が市ということで、管理者との協議は当然必要になってくるが本来は公園を所有しているところからやってもらうべきで、地域協議会としての範囲から外れている感じがする。

それから時計とベンチを付けて、これをいかに活用するのかというところで、子どもの見守りとかコミュニケーションということであったが、40万円もするような物を付ける必要があるのか疑問である。時計とベンチ、これをいかに活用するのか。

【提案者②】

コミュニケーションをとるには、小さいと見えない。そのため子どもが遠くからでも読めるような時計を設置したい。それに立っているのが辛い人や子守で孫を連れてきている人もいるので、3人掛けのベンチの設置場所を検討したい。

【高橋 誠委員】

採択基準の中に物品を買うだけでは駄目とある。コミュニケーションをとるとか、その部分が何か弱いような気がする。あと2つ公園があるがそこも将来時計を付ける予定はあるか。

【提案者②】

今のところ考えていない。

【小林委員】

4年ぐらい前に町内で小学生の女の子から公園に遊具が欲しいという提案が班長を通して役員会にあがった。当時保護者会の役員をしていたが役員として、子どもたちのところに目が行き届いていなかったという思いがあった。提案があったことに対して保護者会や青年会的な組織、町内会が動いて、子ども会や保護者会で募金活動行い町内に説明した。それから青年会・町内会から補助金をうけ、班も出費し遊具を新設するほどであった。町内会でやるべきことをやるのが先ではないかという印象をもった。

【提案者②】

町内では遊具を市に申請をして買っている。不足金は町内で支払っている。市は椅子と時計等は出せないが遊具ならばよいとのことであった。これを機会に子どもたちとのコミュニケーションがとれる講習会等も計画されてくると思っている。

【村田会長】

本年度、青木町内会では、このことを町内会の会議に提案されて、例えば新年度の活動事業として予算化ができるかどうかなどの話し合いをしたのか。

【提案者②】

椅子と時計以外の予算は少しだけもってある。

【村田会長】

本事業について予算はないということで、町内会でどうしても必要だと町内会長として言われたと思うが、それは町内会の会議の中でこの件の話し合いをされているのか。

【提案者②】

今年度の町内会の総会は書面議決であった。皆さんの前で話しはしていないが文書では地域活動支援事業に申請をしたいと出している。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.8の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.8「まちづくり、子供の安心・安全の見守りと健全育成の支援事業」の審査・採点を終了。

整理No.9「金谷人 若者活性化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

・事業概要に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石川委員】

一生懸命なのがよく伝わるが広告宣伝費記事広告55,000円を4回、SNS発信参加者募集広告デザイン費が44,000円で2回となっている。だが、登録者数が200人もいる中で、広告を出してSNSの募集広告のデザインまで依頼して発信する必要があるのか。私は必要ないと思う。なぜなら、そんなに集まっても困るし200人もいれば口コミで十分だと思う。チラシを自分たちで印刷して、手渡しでやってもそう集まるものではないが、ここまでやらなくても皆さんの力でできるのではないかと思う。フリマの消耗品は良いが、体育館の使用料48回は参加者で負担してはどうか。

【提案者】

体育館の使用料は、実際、人が集まるかわからなかったのが追加させてもらった。確かに今、毎週来ているメンバーが10人くらいである。そちらの方で何とか賄えていけそうだと感じている。ただ、ボールなど消耗品の購入費を考えると、サポートしていただけると嬉しい。

宣伝広告費に関しては初年度、金谷人を立ち上げる時に、口コミ、SNS、チラシを使って実施したところ知り合いしか来なかった。令和2年度もチラシ、ポスターでやったがこれも知り合いしか来なかった。その経験を基にプレスリリースをしてスカイランタンを募集したところ1週間で集まった。その時にネット広告の強さというものを非常に感じた。プレスリリースとなると無料だが、大体1回しか記事にならない。今年度はしっかり記事広告ということで予算をいただき金谷人という団体のPRをしていきたい。若者みらい会議の中でもこの金谷人が最初に立ち上がった団体である。この金谷人をモデルケースとして活動できたらと考えている。

若者みらい会議の目的としては上越市28区すべてに、この社会人サークルを立ち上げることであるが、金谷人をまだ知らない方が多いのでネットの力を使っていきたい。活動は若い方がメインなので、正直チラシは見ないし持たないのでネットはデータさえあればメールやSNSでシェアができ、より拡散力がある。そのためネットに集中して提案した。

【石川委員】

若い人はネット社会だと思うが、今このコロナの中でそんなに人を集めるのも、

開催自体も危ぶまれるのではないかと思う。地元の新聞などもあるし、そういう効果もあると思うので忘れないでほしい。

【小林委員】

構成員620人と書かれているが先ほどの説明の200人との違いについて教えてほしい。金谷山を使用するということが事前協議で場所の確保とか、スカイランタンでは関係団体との協議が必要でないのか。皆さん志がある若者だと思うので、例えばメンバーから会費を取る。会費を取れば本当に志のある人間だけが残ると思う。その中で、みんなで集めてお金をどういうふうにするか。そこで、どうしても助けが欲しいというのであれば、今回の宣伝費のようになるのかと思う。今回はSNSに対しての広告宣伝費がほぼ全額みたいな感じである。SNSの広告はパワーもあるが、それが継続するかどうかは中身ではないか。こういうサークル活動は大体消滅する。これが長く続くかどうかは本気の人がいるかどうかである。そのあたりを検討してほしい。

【提案者】

若者から会費をとっていくことができたら理想である。ノリで来ている子が多く、参加したいがお金を払うほどではないという考えである。金谷人という団体が地に足をつけてひとり立ちするまでは、宣伝広告費に力を入れたいと考えている。事業をするには、まず知ってもらうことに一番費用をかけるべきと考えている。その中からコアなメンバーが出てきて会費を集めて活動するようになっていくことを現段階では考えている。

構成人数については、団体等の沿革の欄に平成27年7月に若者みらい会議設立から金谷人設立、一般社団法人アクティブスポーツ協会設立。今年の2月に安塚区にて社会人サークル設立とある。それぞれのメンバーの合計と書き出していないが、スポーツ団体上越社会人サークルロハスのトータルが620人となる。

事前協議として、場所に関しては市の担当課と協議済である。

【神崎委員】

やはり広告宣伝費が高いところが気になる。記事広告でフリマ1回とあるのは出展を募る広告か。

【提案者】

出展者募集と来場者募集のネット記事である。

【神崎委員】

フリマ、スカイランタンとスポーツ交流会があるがそれぞれ何人ぐらい集めることを目標に広告をするのか。

【提案者】

フリマの出店数の目標は50店舗、来場者は300人。スカイランタンは各100人ずつ。スポーツ交流会は30人を目標に今年は活動していく。

【神崎委員】

フリマ50店舗は1回で50店舗、1回で300人か。

【提案者】

そのとおり

【石川委員】

若い方はSNSを使えるので、記事広告をしなくても通じるのではないか。

【提案者】

確かに私もそう考えているが20代の若者の感性は我々と違うものがある。私も簡単なデザインならできるが、デザイナーが作成するとセンスが違い参加したいと思えるデザインを今回もつくってもらった。私では魅了するようなデザインはつくれなかった。この記事広告の力は一番あると思っている。フリーペーパーもあるが若者は見ないことが調査でわかっている。上越市の情報を得るためのツールを聞いたところその媒体が非常に多かった。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.9の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.9「金谷人 若者活性化事業」の審査・採点を終了。

整理No.11「平山で花&夢いっぱい咲かせよう運動事業」について、提案者に説

明を求める。

【提案者】

- ・ 事業概要に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【平良木委員】

春と秋2回花を植えたりするが、毎年どれぐらいの人数が参加するのか。子どもの育成と言われたが子どもたちへの参加の呼びかけなどはどのようにするのか。

【提案者】

毎年の参加人数については、昨年度までなかなか集まらなかったのが実態である。今年から趣旨を変えて各班長に依頼をして募集をかけている。5月9日は役員が8人だが参加者が24人、次は22人、5月23日は18人で多数の方が参加している。子どもたちも植栽をしたりしている。子どもたちへの参加の呼びかけは保護者が参加する際に子どもも一緒に参加するよう呼びかけている。

うちの町内会は世帯数が多く今8班ある。新興住宅地で200世帯以上が住んでいる。若い方で子どももいるので高田西小学校の児童数も増えている。そういう方々も一緒にやることが今回の趣旨である。

【小林委員】

この交差点は、朝一緒に通う子どもたちとパトロール隊で先導してくださる地域の方、交差点に立って声掛けしてくださる方の要所である。交差点の花のところが、憩いの場になるといいなと思っていた。また各班に声をかけて参加する人も増え、ますます町内の憩いの場になり最終的にテーブルや椅子をおいて日中でも季節が良ければお茶を飲んだり、パトロール隊の人達も雑談して帰ったり、そういう場になればいいなと思う。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.11の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.1 1 「平山で花&夢いっぱい咲かせよう運動事業」の審査・採点を終了。

整理No.1 3 「ミニ新聞「まめでやったけえ」発行継続及び製本化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業概要に基づき説明

【堀川センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【平良木委員】

読ませていただき内容も素晴らしいと思った。作成の過程で見守りという福祉的なところがすごく意味があると感じた。コピーで今後60部。製本する150部はそれぞれどのような人たちに配布されるのか。

【提案者】

まずは、今までお弁当を食べに来てくれた参加者、村の人達全員に配りたいと思う。それは40部ぐらい。外から投稿していただいた方、支援者の方、一生懸命やってくださっている方が自分の兄弟や親にも見せたいという場合もあるので150部とした。他にも希望があれば配布できると思う。

【高橋 誠委員】

10年で30号ということで素晴らしい内容だと思った。今まで出版の費用はどのようにしていたのか。これからの31号から33号を計上した理由は。

【提案者】

今までは白黒なのでコピー機で印刷していた。皆さんから原稿をもらって私がパソコンで打っている。その手間やコピー代、インク代、用紙代は全て私が持ち出している。そして印刷費は他のメンバーが実費を全部割り勘で負担している。それぞれ思いを持った人たちが損得勘定抜きでやらないと続かないと思う。誰かのところに話を聞きに行つて原稿を依頼するために回ってくれる方もいる。そういう手間暇も含めて全部ボランティアでやっている。情報を持ち寄つてやっているのですお金には計算できない。

【高橋 誠委員】

それならば31号から33号もそれでいいのではないか。10年経っての30号は価値のあることだと思うが。

【提案者】

今回この機会に、インクやコピー用紙を自己負担ではなく揃えさせていただけたらと思った。本当は31号、32号ぐらいまでは3月の審査の締め切りまでに載せられるかと思ったが印刷の都合で8月ぐらいに取りかからないといけないので31号は8月にやりたい。32号は12月末に、33号はいつも3月11日がこのメインなので3月の発行は動かせない。そこはご理解いただきたい。

【山井副会長】

冊子編集デザインとして10万円が計上されているが、これは他に頼むということか。

【提案者】

その通り。私たち個人では良い考えが浮かばない。自分でやりたいが自分でやれる術はない。人に頼むしかないと思った。

内容で差別的な用語などには配慮したいと考えている。川柳と雑誌からとっているのは全部出版社に了解を得ている。詩について全文は短くても載せるのは著作権に関係するということで、感想文であれば良いということなので感想文的なものに変更しようと思っている。

【堀川センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.13の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.13「ミニ新聞「まめでやったけえ」発行継続及び製本化事業」の審査・採点を終了。

これで本日本日予定していた9件の審査が終了した。残りの7件については、明日実施する。

これより本日の会議の進行を会長に戻す。

【村田会長】

以上で次第3議題（1）「令和3年度地域活動支援事業について」を終了する。

—事務連絡—

【村田会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

・今後の日程

令和3年度第3回地域協議会

5月26日（水）午後5時30分から 福祉交流プラザ

・内 容：令和3年度地域活動支援事業の審査・採択

・当日配布資料：勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金の活用に関する意見書（中郷区地域協議会）

まちづくり市民大学OB会からのチラシ

【村田会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

本日の議題は全て終了した。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。